

2022年度環境情報科学研究発表大会

(一社)環境情報科学センター 一般公開シンポジウム

環境情報科学の将来展望

～持続可能な脱炭素社会に向けたCEISの役割～

□日時：2022年12月8日（木）15：00～17：30

□場所：オンライン開催

□主催：一般社団法人環境情報科学センター

□後援：環境経済・政策学会、環境アセスメント学会、環境福祉学会

□参加定員：150名（公開・会員優先）

□参加費：無料（事前申込制）

申し込み先：https://www.ceis.or.jp/sympoinfo_2022.html

※2022年度環境情報科学研究発表大会サイト内の「シンポジウム等参加申込フォーム」よりお申込みください。

なお、基調講演・特別講演はオンデマンド配信となりますので、事前に御覧いただくうえで御参加ください。

□開催趣旨：

気候変動問題の深刻化等を背景に、デジタル化の普及、イノベーションの推進による持続可能な脱炭素社会への転換、グリーントランスフォーメーション（GX）が現在、大きな課題になっています。

このため、政府においては、GXの実行のために経済・社会、産業構造変革への今後10年のロードマップの検討等が行われています。また、環境分野では持続可能な目標（SDGs）の達成や、カーボンニュートラルな社会・循環型社会の実現等を視野に入れて次期環境基本計画の作成に向けた検討が始められています。

一般社団法人環境情報科学センター（CEIS）は、設立50周年記念活動の一環として学会誌で「環境情報科学のこれまでとこれから」を特集し、気候変動等の分野でのこれまでの経緯や成果と今後の課題、将来展望について論じ、2030年、2050年といった中長期的な環境情報科学研究の展開に寄与することを目指しています。また、昨年は、持続可能な地域づくりの鍵となる「地域循環共生圏」について、その実現に向けた研究の推進をテーマとしたシンポジウムを開催しました。

本シンポジウムは、上記のような状況を踏まえて、持続可能な脱炭素社会に向けた

環境情報科学の将来展望をテーマに、基調講演をしていただきます。

これを受けてパネルディスカッションでは、気候変動・脱炭素社会、自然共生・生物多様性、循環経済・循環型社会の分野での現状と課題についての発表とディスカッションによるコメントをいただき、今後の展望、実践への活用の課題等を議論します。

これらを通じて、持続可能な社会の実現やGXに対応して分野横断的、統合的な解決策を提示できる環境情報科学の将来への展開を目指します。また、CEISとしても2025年度を目標とする中期活動計画及び2030年以降のあるべき姿や活動目標を示す長期ビジョンへの成果の反映を図ります。

なお、本シンポジウムは、環境情報学術研究論文発表会の一環として開催するもので、会員に限らず広く一般の方も対象に公開して開催します。

□講演者(予定)

基調講演： (オンデマンドで事前公開)

1. 持続可能な社会の構築に向けた環境情報科学の将来展望

講演者： 武内和彦 財団法人地球環境戦略研究機関 (IGES) 理事長

2. 持続可能な脱炭素社会の実現を目指す行政の取り組みと環境情報科学

～ 新たな環境基本計画の策定に向けて～ (仮題)

講演者： 上田康治 環境省総合環境政策統括官

パネルディスカッション： (Webinar)

モデレーター： 藤田八暉 久留米大学名誉教授 (CEIS常務理事 第2次中期計画2025及び長期ビジョン特別委員会委員長)

パネリスト

杉山昌広 東京大学未来ビジョン研究センター准教授

藤稿亜矢子 東京女子大学現代教養学部教授

松本亨 北九州市立大学大学院国際環境工学研究科教授

ディスカッサント

馬奈木俊介 九州大学主幹教授

大倉紀彰 環境省大臣官房政策調整官

問合せ先：(一社) 環境情報科学センター事務局 (町田・荒井・石丸)

〒102-0074 東京都千代田区九段南3-2-79 いちご九段三丁目ビル

Tel：03-3265-3916 Fax：03-3234-5407

E-mail： member-jimukyoku@ceis.or.jp